

さらには、入浴時や食事中に重大な事故が発生しないよう、緊急に対応ができるように浴室と脱衣所、フロアーに支援員の配置を徹底しました。

これらに加え、65歳以上また、高齢化に伴う身体・認知機能の低下が見られる利用者に対し介護認定を受ける等、今後の生活のあり方等を家族の方と話し合いました。

また、外出する機会を多く提供できるよう、舞洲障がい者スポーツセンターのグループ教室に参加し、定期的に身体を動かす機会を設けました。

【ビーンズ】

ビーンズでは利用者16名に対し、福島区内の3住居でグループホームの事業を行っています。

利用者本人が安心して心豊かに過ごせるように、生活支援員・世話人を始め、区障がい者基幹相談支援センターとの連携も図りながら、個々の利用者に応じた支援を行いました。そして、高齢となった利用者に対してはグループホーム内の段差の解消、階段の滑り止めや手すりの設置等、安全に生活が送れるよう住環境を整えました。

また、地域に向けては近隣にお住まいの方々に積極的に挨拶を行い、地域の行事に積極的に参加するなどして、良好な関係を築くように努めました。

大阪市手をつなぐ育成会 第13期 役員について

大阪市手をつなぐ育成会では、第12期の役員任期が終了するため役員の改選を行いました。

6月20日に開催した評議員会で、次の9名の方を役員として選任し、同日開催した第2回理事会で3役(理事長・副理事長・常務理事)が決定致しました。

なお、任期は令和元年6月20日から選任後2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時(令和2年度の決算評議員会)までとなります。

理事長	小泉 いと子 [(社福)清心会 副理事長]
副理事長	長谷川 美智代 [相談支援くりいむ 相談支援専門員]
副理事長	中島 由紀子 [東成育成園 元保護者会長]
常務理事	村江 昇 [大阪市中央児童相談所 元所長]
理事	松村 ユカ [港育成園 元保護者会長]
理事	角森 佐岐子 [メープル管理者]
理事	藤原 勇治 [西部就業・生活支援センター所長]

監事 小山 直幸 [大阪市障がい者スポーツセンター
スポーツ振興室 室長 兼 大阪市立
長居障がい者スポーツセンター 館長]

監事 南石 勲 [(社福)ワークスエオン 所長]

平成30年度 決算について

6ページに記載の資金収支計算書を用いて決算状況について報告します。

30年度では、法人全体として「事業活動による収支」の「収入の部」の合計である「事業活動収入計(1)」は、約9億1,687万円となり、「支出の部」の合計である「事業活動支出計(2)」は約8億8,617万円となり、収入と支出の差を表している「事業活動資金収支差額(3)」では、約3,070万円となりました。

次に「施設整備等による収支」では、「設備資金借入金元金償還支出」は平成11年に開所した福島育成園の建設時に福祉医療機構より借り入れに対する返済となり、毎年1,285万円を支出していましたが平成30年度をもって完済しました。次に「固定資産取得支出」としては約961万円を計上しています。そのうち最も大きなものは、港育成園・港第二育成園・メープルで使用している高圧電気設備となり、200万円を更新をしました。その結果、「施設整備等資金収支差額(6)」では約2,246万円の支出超過となりました。

また、「その他の活動による収支」の「積立資産支出」では約2,082万円を支出しています。このうち、約1,677万円は当年度の社会福祉事業で生じた資金収支差額であり、例年どおり将来の修繕・設備更新用として積み立てました。その結果、「その他の活動資金収支差額(9)」では約812万円の支出超過となりました。

最終的に「当期資金収支差額合計(11)」は約12万円を計上することができました。

次年度以降は、福島育成園の借入金返済が無くなったため、資金が増える見込みとなっています。

一方、社会的にも課題となっている福祉人材不足の影響も少なからず受けており、当法人でも今後の職員採用に向け初任給調整手当を新設する等して、人材の確保に向けてあらゆる手法を検討しています。

今後は役職員一丸となって健全な法人運営を目指すとともに、人材の確保をしながら永続的な経営が出来るよう、さらなる努力をしてまいりたいと考えております。